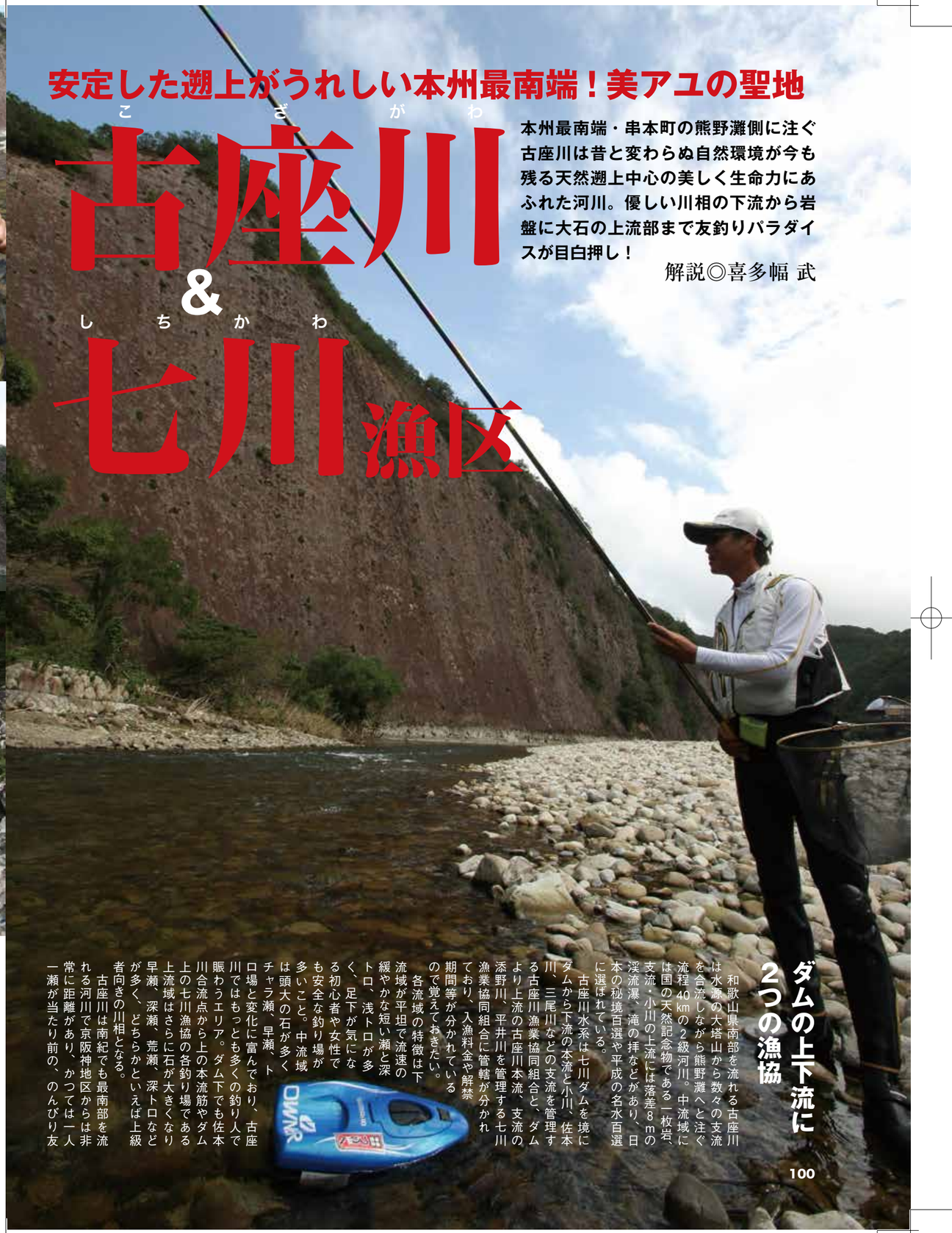
安定した遡上がうれしい本州最南端！美アユの聖地

古座川（こざがわ）&七川（しちかわ）漁区

本州最南端・串本町の熊野灘側に注ぐ古座川は昔と変わらぬ自然環境が今も残る天然遡上中心の美しく生命力にあふれた河川。優しい川相の下流から岩盤に大石の上流部まで友釣りパラダイスが目白押し！

解説◎喜多幅 武



ダムの上下流に2つの漁協

和歌山県南部を流れる古座川は水源の大塔山から数々の支流を合流しながら熊野灘へと注ぐ流程40kmの2級河川。中流域には国の天然記念物である一枚岩、支流・小川の上流には落差8mの渓流瀑、滝の拝などがあり、日本の秘境百選や平成の名水百選に選ばれている。

古座川水系は七川ダムを境にダムから下流の本流と小川、佐本川、三尾川などの支流を管理する古座川漁業協同組合と、ダムより上流の古座川本流、支流の添野川、平井川を管理する七川漁業協同組合に管轄が分かれており、入漁料金や解禁期間等が分かれているので覚えておきたい。

各流域の特徴は下流域が平坦で流速の緩やかな短い瀬と深トロ、浅トロが多く、足下が気になる初心者や女性でも安全な釣り場が多いこと。中流域は頭大の石が多くチャラ瀬、早瀬、トロ場と変化に富んでおり、古座川ではもっとも多くの釣り人で賑わうエリア。ダム下でも佐本川合流点から上の本流筋やダム上の七川漁協の各釣り場である上流域はさらに石が大きくなり早瀬、深瀬、荒瀬、深トロなどが多く、どちらかといえば上級者向きの川相となる。

古座川は南紀でも最南部を流れる河川で京阪神地区からは非常に距離があり、かつては一人一瀬が当たり前の、のんびり友釣りが楽しめる川だった。昔から安定した天然遡上量があり、どのポイントに入っても真っ黄色のアユがよく掛かった。しかし近年、天然遡上の不調、冷水病などで友釣り不振の河川が多くなった影響で、好釣果が期待できる古座川への注目度が高まり、現在では遠来の釣り人も非常に多くなり県を代表する友釣り河川となった。

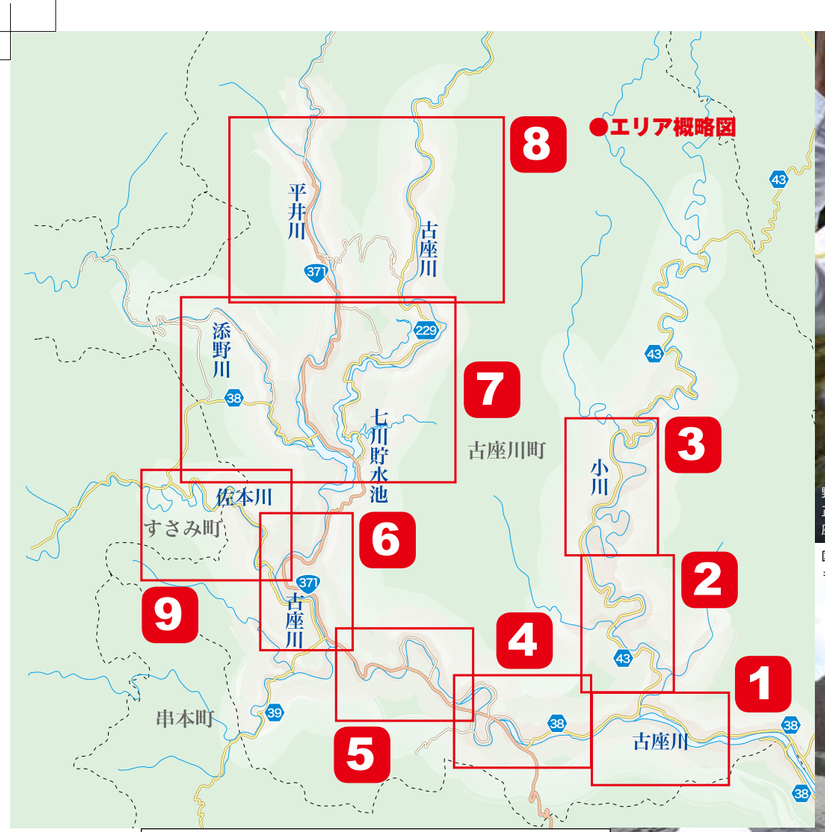
平成23年の台風12号にともなう和歌山県下の大水害では古座川でも吊り橋の流失、家屋の床上浸水などの多大な被害があったが、その翌24年も以前と変わらない天然遡上があり、野生のアユの力強さを大いに感じられた。

平成25年のシーズンは近年にない量のアユが足の踏み場もないほど遡上。解禁日から3ケタ釣られた方も珍しくないという盛り上がりをみせたのだが、夏に入ってからは雨不足による超渇水、高水温で全体の半分近くのアユが酸欠により死んでしまい後半から終盤の釣果が危惧されたが、その後の水量の安定で平年どおりの釣果があったようだ。

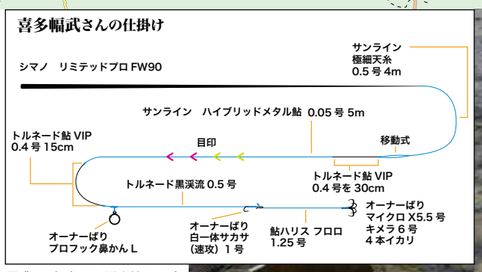
海産の天然アユが豊富な古座川は友釣りシーズンが長いのも特徴で、例年10月いっぱいは黄色いナワバリアユが目印を派手に飛ばしてくれる。普段は他の放流中心の河川で釣りをしているが、後半になると古座川通いを始める釣り人も多いと聞く。本州最南端の天然美アユを終盤まで、めいっぱい堪能できるのが古座川だ。

野性味たっぷり、正真正銘これが古座川の天然美アユ

国の天然記念物である一枚岩の下も好ポイントが連続している



喜多幅武さんの仕掛け



平成 26 年度、七川漁協では古座川材（樹齢約 100 年の桧）を利用した昔ながらの木に焼印された復刻版鑑札（年券）を販売。ただし限定 100 枚で 3 月末までの申し込みとなっている

2013 年 10 月 8 日、中流部の相瀬橋上流での釣果。まだまだ若いアユだった

小川の上流にある滝の拝。約 1km にわたり岩盤の川床が露出、8 m の落差がある渓流瀑。2010 年に和歌山県の名勝・天然記念物に指定された

古座川上流部、本流筋の松根付近。岩盤に大石ががらむ渓流相の釣り場

koza/shichi/otagawa-wakayama.indd 100-101　2014/03/23 16:28